

# ソーシャルファイナンスの時代

## ～地域社会を勇気づける信用組合～



信用組合 実践の時

まち実践社  
代表 村橋保春

### 時代の変化と再生の基軸

学生時代ドイツを訪れた。当時はBRD（西ドイツ）とDDR（東ドイツ）連邦共和国とDDR（東ドイツ）に分かれ、西ベルリンはDDRの領土の中に位置し赤い海に浮かぶ自由の島と呼ばれた。ベルリンの壁は物理的な壁にとどまらず、ドイツの人たちを制度的にも精神的にも強く分断するものであった。

ベルリンの壁が崩壊したのは1989年11月、東西ドイツの再統一は翌年10月である。ベルリンの壁崩壊後東欧革命が起こり、ブルガリア、チェコスロバキアなどの東欧諸国が社会主義を放棄し、民主国家へと転換した。1991年には社会主義の盟主ソ連自体が崩壊する。

ドイツ再統一は東西両国間の政治制度の相違、経済力の格差などにより困難が予想された。紆余曲折があったものの、DDR出身のメルケル首相が長期政権を維持しているように、ドイツは真に壁を取り払い一国とし

て再生している。第二次世界大戦の戦後処理により東西に分断されたが、ドイツという歴史、風土、民族、精神が再び一つにまとめ上げた。

時代はいつも変化する。時として大きく変化する。変化の荒波に翻弄され絶望的な打撃を受けることもある。しかし歴史は多くの再生を見てきた。再生にはしっかりとした基軸が必要である。ドイツが歴史や風土などを基軸に再生したように、再生事例には必ずしっかりとした基軸がある。

### 資本主義の課題と信用組合の理念

ソ連崩壊で社会主義は一敗地にまみれ、米国の存立基盤である資本主義こそが人類にふさわしい社会システムであると喧伝される。ところが資本主義が生み出す深刻な社会的課題により、資本主義は「強欲」、「拝金」、「暴走」など修辭をつけて批判されるようになった。ただし、資本主義のあり方を批判するが資本主義に代わる新たな社会制度

を唱える論者は少ない。資本主義を適度にコントロールし、多くの人たちが市場競争の場に参画でき、成果が過度に偏在しないようにする。人類は新たな社会制度を発明するまでは、資本主義を調整しながら活用していくこととなる。

金融機能は資本主義により発展し、今では資本主義のあり方そのものに大きく関わる社会機能である。人々の暮らしをよくする役割を果たさなければならぬ。しかしグローバル化、IT化の進展に合わせて金融機能は自己目的化し、凶暴になり破壊的になってしまった。経済学の父アダム・スミスは『道徳感情論』の中で人は同感(sympathy)をもとに行動し社会に一定の秩序をもたらすとし、過度な富の集中を批判する。心に響く考え方である。

そもそも資本主義とは資本の運動により利潤や剰余価値を生む経済制度をいい、資本や利潤が社会に偏在し経済的弱者を生み出すことに資本主義の根源的問題がある。ソーシャルファイ

ナンスは資本や利益の偏在を解決するための金融手法である。信用組合の理念「相互扶助・自立共助」は資本主義が抱える問題を本質から解決するものであり、ソーシャルファイナンスの理念として捉えることができる。

### 弱者の防具・攻具

ソーシャルファイナンスは金融的弱者の救済を目指す。金融的弱者の救済は2つに区分される。個人の生活を維持するための経済的救済と、社会的参画を支援する事業的救済である。

個人の生活を維持するための経済的救済は弱者の防具である。信用組合はこの防具として大いに活躍している。本連載第7回でまとめたいわき信用組合の個人ローンの取組みは地域とそこで暮らす人たちすべてを丸ごと支える営業方針により、ローン利用者から大きな信頼と支持を得ている。ローン利用者に「人」としてしっかり向き合い、一律ではない課題解決型の提案営業を行う。信用組合だけ

らできる、心の通ったていねいな対応である。

社会的参画を支持する事業的救済は弱者の攻具である。グラミン銀行やイタリヤ倫理銀行などソーシャルファイナンスの先駆けとなる金融活動事例が数多くある。本連載でも第2回の秋田県信用組合の田舎ベンチャービジネスクラブ支援、第3回の会津商工信用組合のふくしまNPO元気支援ローン、第4回の兵庫県信用組合の認定支援機関活動などの事例を紹介した。

事業的救済を実施するに当たっては経営コンサルティング能力が求められる。本連載第4回で示したとおり、全国信用組合中央協会のホームページには「事業経営に関わる諸情報提供サービス」を充実し、コンサルティング能力を高めて融資や余裕資金の管理運用といった金融サービスの提供を謳い、金融庁の「中小・地域金融機関向けの総合的な監督指針」においても顧客企業に対するコンサルティング機能の発揮を求めている。

現政権が推し進める「地方創生」にあつては地域の産官学金労言の連携と創生事業推進を求めている。地域で活躍する事業者の多くは中小零細規模の事業者であり、多様な就労形態の一つとして起業家育成も推奨している。信用組合が地域連携の「金（金融）」の要となり、コンサルティング能力を発揮して積極的に事業的救済に取り組んでもらいたい。

### 信用組合 実践の時

地域社会の特徴とはなにか。お互いを知り合う環境にあることと考える。グローバル化、IT化により範囲が際限なく広がり相手が見え、相手を意識する必要がなくなる。相手を慮ることもなく、自分自身の利得の獲得だけを考えればよい。相手が見えなくなつてから、金融機関の社会性が大きく減衰した。

お互いを知り合う環境は信頼しあつて絆が生まれ、窮屈なしがらみを感じる。勝者と敗者を区分することは地域の連帯を打ち砕く。地域セイフティネット

を用意しなければならない。地域には多様な人々が住み、多元的で複層的な価値観をもつ社会を組み上げる。一方で地域は歴史や風土などの基軸をもつ。多様性と同一性の均衡を図り、地域の再生を目指すことが大切である。

信用組合は地域と重なりあつて金融活動を行う。地域の一員として、常に地域を意識して活動する。地域金融には地域内における絶妙なバランス感覚と地域への愛、貢献意欲が求められる。

ソーシャルファイナンスを体現した信用組合だからこそ、地域社会を勇気づけることができる。本連載執筆に当たり心温まるご協力を受け、迫力ある地域金融活動を知り、信用組合だからこそ果たせる役割を確信した。

信用組合 実践の時である。信用組合ご関係者のますますのご活躍を大いに願ひ、本連載を終える。まことにありがとうございます。